

# 細田議長不信任案提出へ

## 立民、セクハラ疑惑巡り

立憲民主党の馬淵澄夫国対委員長は1日、細田博之衆院議長の不信任決議案について「提出の準備に入る」と表明した。週刊誌のセクハラ疑惑報道への説明が不十分などと批判。「三権の長として許し難い。他の野党とも(共同提出を)呼びかける」と国会内で記者団に語った。七田とも提出する方針。細田氏が所属していた国民党など、与党は否決方針を示した。=論説◎

馬淵氏は議長不信任案の提出理由として、セクハラ疑惑への対応に加え、衆院小選挙区定数の十増十減への否定的な発言や、国会議員の定数増を主張したこと

案の提出方針を確認。内閣不信任決議案についても議論した。

立民、共産、社民各党は三日前、細田氏にセクハラ疑惑の事実関係を速やかに明らかにするよう求める申し入れ書を提出した。細田氏は「私は事実無根だと黙っている」と応じた。立法院の資質に関わり説明を強く求めてきた。大きな問題だ」と訴えた。

太代表、西村智奈美幹事長、水岡俊一参院議員会長らが協議し、細田氏は議長の資質を欠くとして不信任

民民主党幹部も反対する方向だ」とした。

自民の高市早苗政調会長は記者会見で「与党として当然否決する方針だね」と強調した。公明党の石井啓一幹事長は会見で「賛成する」とはあり得ないと語った。